

2021年7月30日

川辺川ダム建設促進協議会 会長 森本完一様

「川辺川(流水型)ダムの早期完成に関する要望書」への抗議文

子守唄の里・五木を育む清流川辺川を守る県民の会

代表 中島 康

美しい球磨川を守る市民の会

代表 出水 晃

代表連絡先 〒860-0073 熊本市西区島崎 4-5-13

TEL:090-2505-3880 中島 康

私たちは、清流球磨川・川辺川を守り、住民主体による復興を支援している市民グループです。

貴会は、7月8日、熊本県に、7月15日に国土交通省九州地方整備局に流水型川辺川ダムの早期完成に関する要望書を提出しました。私たちは、貴会のこの要請に強く抗議いたします。

貴会自体、何ら法的根拠に基づく組織団体ではなく、貴職12市町村長の個人的な意思に基づく任意団体であることをまずもって指摘しておきたいと思えます。また昨年指摘しましたが、もともとこの「要望書」自体、被災住民を始めとする流域住民の意思に基づかない貴職12市町村長の個人的な見解に過ぎないことを指摘しなければいけません。被災住民には、過去に市房ダムの放流を経験した経緯から、ダム建設には強い拒否反応を示す人もいます。昨年末の新聞のアンケート結果でも、ダムの推進を表明した蒲島郁夫熊本県知事の判断に対しては「支持する」と「支持しない」がほぼ同数で、被災者が望む治水対策で一番多かったのはダム建設ではなく「宅地かさ上げ・高台移転」(30.7%)でした(2020年12月29日付け熊本日日新聞)。このように住民の声を無視して、貴職はなぜダム建設にのみ、まい進するのでしょうか。

「流水型ダムがこれまでの貯留型ダムに比べて環境への負荷は明らかに軽減される」と要望書の中で断言されていますが、環境問題の専門家でもない貴職がなぜ、このようなことを言うのでしょうか。流水型ダムの環境面での問題点として、1.水生生物の行き来を妨げる副ダムの問題、2.濁りの長期化、3.ダム下流河川の河床の泥質化を上げる専門家もいます(水源開発問題全国連絡会のWEBサイト:<http://suigenren.jp/news/2020/12/26/13878/>参照)。このような問題点を貴職はどのように考えておられるのでしょうか。

また流水型ダムに対する、環境影響評価の実施に関して「すでに実施した調査内容を最大限活用するなどにより、最小限かつ短期間で実施する」ことを求めています。ただでさえ従前の川辺川ダム計画で行われた国交省の環境調査については不備を指摘する声があるにも関わらず、それを「最大限活用」などとは、清流球磨川・川辺川を前提に復興を推し進めようとする住民の不安や心配を増やす物でしかありません。

貴職がそれほど、人吉市を始めとする下流域の洪水防止を真剣に考えておられるのなら、完成に10年くらいかかると言われ、建設予定地の相良村や水没予定地の五木村に多大な負担を強いるダム建設ではなく、錦町を始めとする上流域での遊水地を検討されたいかがでしょうか。

貴職には、この要望文を取り下げ、被災住民を始めとする住民の声に真摯に耳を傾け、流域にどのような治水対策や復興が求められているのか、考えられますことを求めます。

以上